

CASBEE-新築(簡易版)2010年版
本社様

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010
 ■評価ソフト: CASBEE-NCb_2010(v.1.6)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
Q 建築物の環境品質							4.4
Q1 室内環境				0.40			4.4
1 音環境			4.6	0.15			4.6
1.1 騒音			5.0	0.40			
1 室内騒音レベル	前面道路からの充分な離隔		5.0	1.00			
1.2 遮音			4.6	0.40			
1 開口部遮音性能	サッシ遮音性能T-2		5.0	0.60			
2 界壁遮音性能	界壁遮音性能Dr-40以上		4.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							
1.3 吸音	床:タイルカーペット、天井:岩綿吸音版、機械室はグラスウールマット貼		4.0	0.20			
2 温熱環境			4.3	0.35			4.3
2.1 室温制御			3.6	0.50			
1 室温			3.0	0.38			
3 外皮性能	平均熱貫流率:窓=3.08、壁=0.89 平均SC=0.51		4.0	0.25			
4 ゾーン別制御性	ゾーニング別に冷媒系統を細分化し冷暖フリーを採用		4.0	0.38			
2.2 湿度制御	デシカント(吸着除湿)方式による外調機を採用		5.0	0.20			
2.3 空調方式	床吹き出しを採用		5.0	0.30			
3 光・視環境			4.2	0.25			4.2
3.1 昼光利用			4.6	0.30			
1 昼光率	昼光率3.3%		5.0	0.60			
2 方位別開口							
3 昼光利用設備	トップライト、ハイサイドライト		4.0	0.40			
3.2 グレア対策			4.0	0.30			
2 昼光制御	ブラインド+庇		4.0	1.00			
3.3 照度			3.0	0.15			
3.4 照明制御	部屋が多いため点滅区分詳細。4階事務室はタスク Ambient 採用		5.0	0.25			
4 空気質環境			4.5	0.25			4.5
4.1 発生源対策			5.0	0.50			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆または規制対象外材料をほぼ全面に使用		5.0	1.00			
4.2 換気			3.3	0.30			
1 換気量			3.0	0.33			
2 自然換気性能	開口0.45m2x25個=11.25m2/1,633.99m2→0.0069m2/m2→		4.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮			3.0	0.33			
4.3 運用管理			5.0	0.20			
1 CO ₂ の監視	CO ₂ 制御採用		5.0	0.50			
2 喫煙の制御	喫煙室を設置		5.0	0.50			
Q2 サービス性能				0.30			4.3
1 機能性			4.5	0.40			4.5
1.1 機能性・使いやすさ			3.0	0.40			
1 広さ・収納性	1人あたりの執務スペースを10㎡以上確保		4.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応	敷地内別棟より各種通信配線敷設		4.0	0.33			
3 バリアフリー計画	福岡県福祉のまちづくり条例整備基準に適合		4.0	0.33			
1.2 心理性・快適性			4.6	0.30			
1 広さ感・景観	事務室の天井高4.2m		5.0	0.33			
2 リフレッシュスペース	喫煙室、リフレッシュスペースあり		4.0	0.33			
3 内装計画	建物全体のコンセプトを基に内装・照明計画を立案		5.0	0.33			
1.3 維持管理			5.0	0.30			
1 維持管理に配慮した設計	メンテナンス性に優れた素材の選定		5.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保	SK、用具庫を適切に配置		5.0	0.50			
2 耐用性・信頼性			3.9	0.31			3.9
2.1 耐震・免震			3.8	0.48			
1 耐震性	25%以上の耐震性能を確保		4.0	0.80			
2 免震・制振性能			3.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数			4.1	0.33			
1 躯体材料の耐用年数	50年		4.0	0.23			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔	アルミ製カーテンウォール、アルミパネル、ガラス		5.0	0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	テラゾーブロック、アルミパネル、ビニルクロス		5.0	0.09			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.08			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水管VLP 排水管VP 冷媒管CUP ドレン管VP		5.0	0.15			
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23			

2.4 信頼性			3.8	0.19			
1	空調・換気設備	個別方式による換気系統と空調系統の細分化	4.0	0.20			
2	給排水・衛生設備	節水器具採用・給水系統の細分化	4.0	0.20			
3	電気設備	発電機設置、蓄電池設置、地下が無いため浸水恐れなし	5.0	0.20			
4	機械・配管支持方法		3.0	0.20			
5	通信・情報設備		3.0	0.20			
3 対応性・更新性			4.4	0.29			4.4
3.1 空間のゆとり			5.0	0.31			
1	階高のゆとり	階高4.2M確保	5.0	0.60			
2	空間の形状・自由さ	壁長さ比率0.1未満	5.0	0.40			
3.2 荷重のゆとり		4500N/㎡以上	5.0	0.31			
3.3 設備の更新性			3.6	0.38			
1	空調配管の更新性		3.0	0.17			
2	給排水管の更新性		3.0	0.17			
3	電気配線の更新性		3.0	0.11			
4	通信配線の更新性		3.0	0.11			
5	設備機器の更新性	スペース確保	5.0	0.22			
6	バックアップスペース	スペース確保	4.0	0.22			
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30			4.5
1 生物環境の保全と創出		潜在的植生の再生	4.0	0.30			4.0
2 まちなみ・景観への配慮		市民に開放された森の整備、景観に配慮した外装	5.0	0.40			5.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.5	0.30			4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上		市民に開放された森の整備、庇の設置	5.0	0.50			
3.2 敷地内温熱環境の向上		外構緑化指数56.53%、水盤、庇、ピロティを整備	4.0	0.50			
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-			3.9
LR1 エネルギー			-	0.40			4.5
1 建築物の熱負荷抑制		断熱性の高い資材使用・PAL値低減28.2%	4.6	0.30			4.6
2 自然エネルギー利用			4.0	0.20			4.0
2.1 自然エネルギーの直接利用		トップライト、ハイサイドライト、クールチューブ	4.0	0.50			
2.2 自然エネルギーの変換利用		太陽光パネルを設置	4.0	0.50			
3 設備システムの高効率化		省エネ計算書による	5.0	0.30			5.0
集合住宅以外の評価(ERRIによる評価)		ERR=40.4%	5.0				
集合住宅の評価			3.0				
4 効率的運用			4.5	0.20			4.5
4.1 モニタリング		自社製品エネサイトで社員がモニタリング	4.0	0.50			
4.2 運用管理体制		自社製品エネサイトで社員がモニタリング	5.0	0.50			
LR2 資源・マテリアル			-	0.30			3.3
1 水資源保護			3.8	0.15			3.8
1.1 節水		節水器具使用	4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用			3.6	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無		雨水利用あり	4.0	0.67			
2 雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減			3.1	0.63			3.1
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.07			
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		電気炉酸化スラグ骨材	5.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用		-	1.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材			2.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		内装材と設備を錯綜を避ける計画	4.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.6	0.22			3.6
3.1 有害物質を含まない材料の使用		4項目以上の有害物質を含まない材料あり	5.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避			3.0	0.68			
1 消火剤			-	-			
2 発泡剤(断熱材等)			3.0	0.50			
3 冷媒			3.0	0.50			
LR3 敷地外環境			-	0.30			3.6
1 地球温暖化への配慮		ライフサイクルCO2排出率70%	4.1	0.33			4.1
2 地域環境への配慮			3.7	0.33			3.7
2.1 大気汚染防止		燃焼機器器具なし	5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25			
1 雨水排水負荷低減			-	-			
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.33			
3 交通負荷抑制		自転車置場、駐車スペース、荷捌きスペースの確保	5.0	0.33			
4 廃棄物処理負荷抑制		分別できるスペースを確保	4.0	0.33			
3 周辺環境への配慮			3.1	0.33			3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40			
1 騒音			3.0	0.33			
2 振動			3.0	0.33			
3 悪臭			3.0	0.33			
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制			2.3	0.40			
1 風害の抑制			2.0	0.70			
2 砂塵の抑制			3.0	-			
3 日照阻害の抑制			3.0	0.30			
3.3 光害の抑制			5.0	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策		夜間消灯、屋外広告物の計画なし	5.0	0.70			
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		グレアの少ないガラスを使用	5.0	0.30			